

男女平等社会づくりに向けた県民意識調査【概要】

平成24年2月 新潟県

調査概要

- 調査対象：新潟県に在住する満20歳以上の男女3,000人
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：平成23年10月28日～11月11日（11月18日到着分まで集計）
- 回収結果：有効回収数 1,575人（女性843人 男性723人 無回答9人）有効回収率52.5%
※結果についての詳細（属性別クロス集計表）は、男女平等社会推進課のホームページ（<http://www.pref.niigata.lg.jp/danjobyodo/>）に掲載してあります。



新潟県

新潟県県民生活・環境部 男女平等社会推進課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

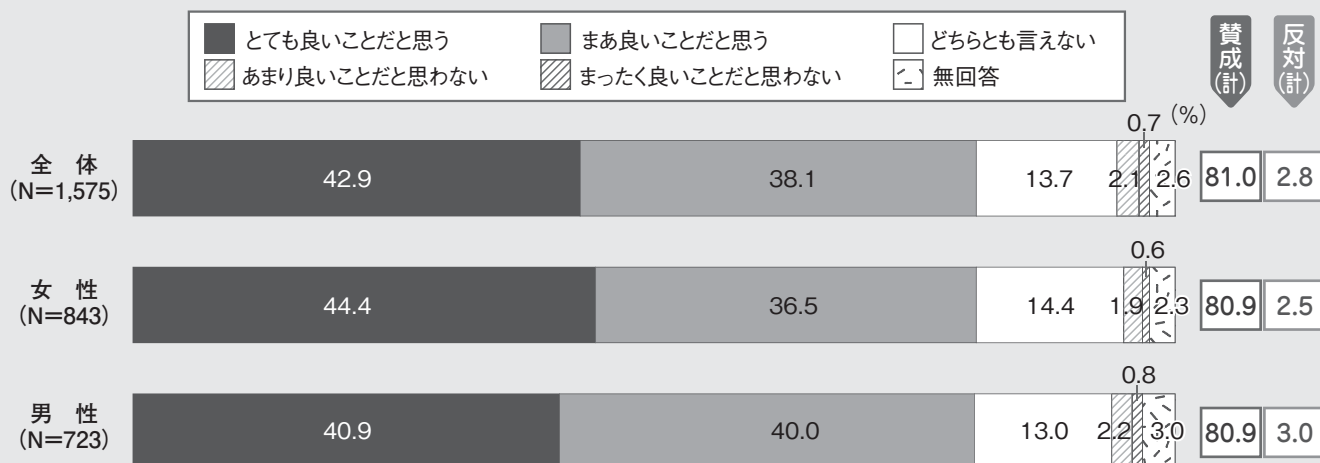
TEL: 025-280-5142 FAX: 025-280-5166

結果の概要

男女共同参画社会の実現について

全体の約8割の人が男女共同参画社会の実現について良いことだと思っている。

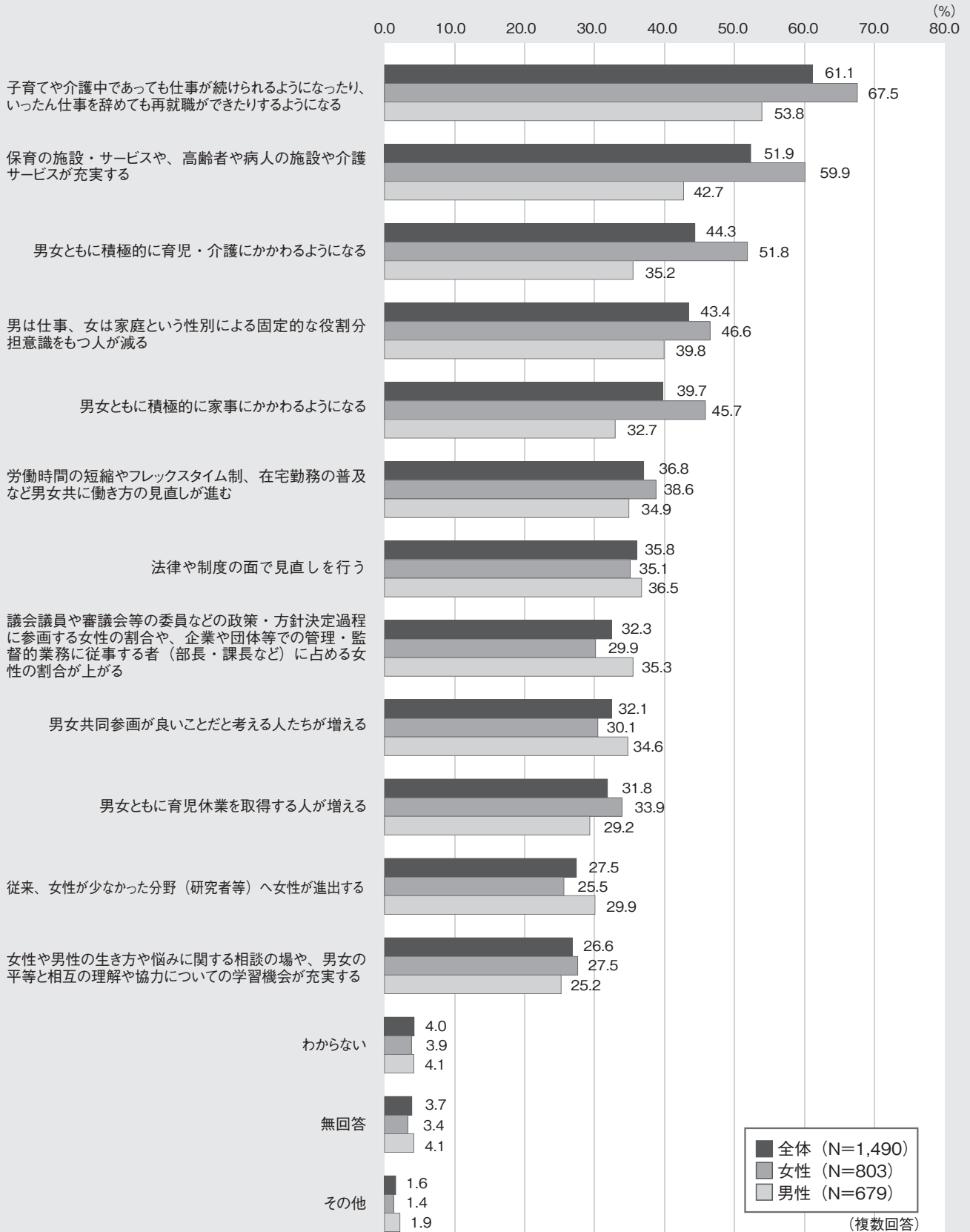
理念については、性別にかかわらず約8割の人に受け入れられている。



男女共同参画社会の実現に必要なこと

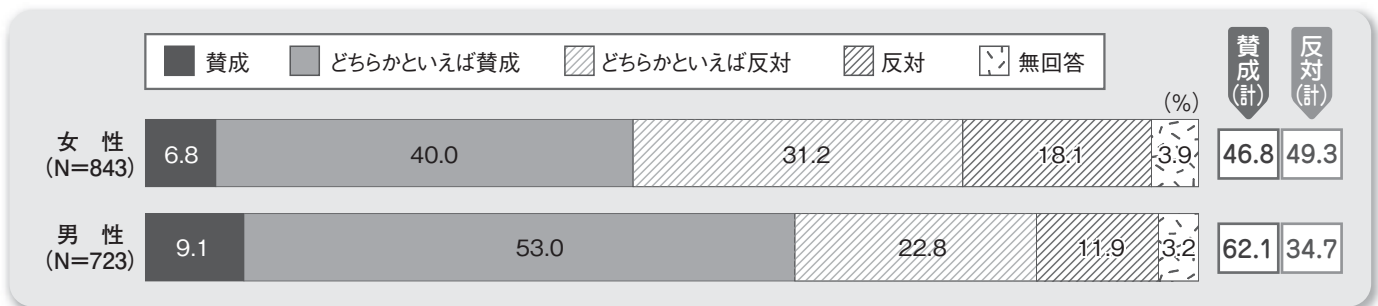
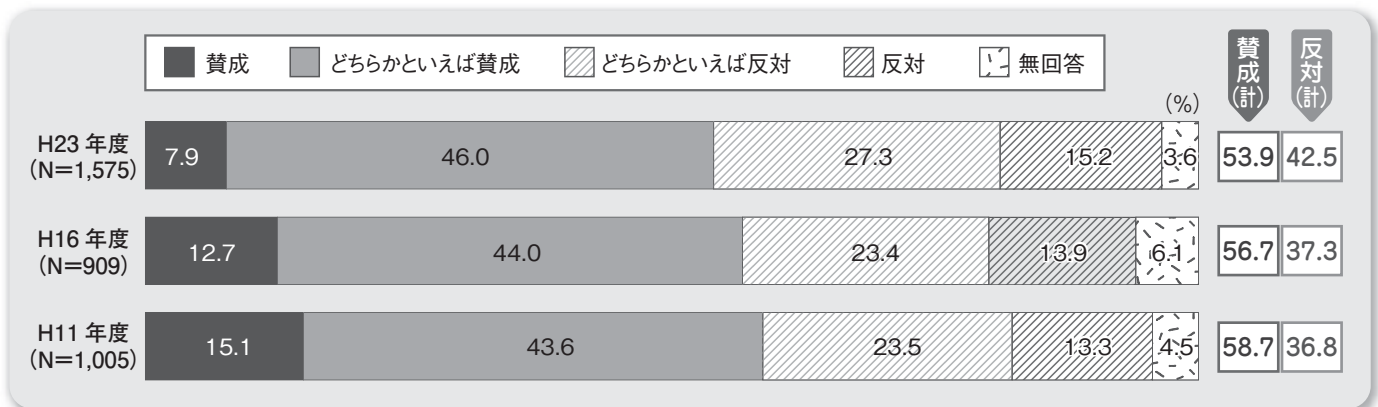
「子育てや介護中であっても仕事が続けられるようになったり、いったん仕事を辞めても再就職ができたりするようになる」が最も多く、特に女性のニーズが高い。

男女とも育児や介護への支援の充実が必要と考える人が多い。



「男は仕事、女は家庭を中心とする方がよい」という考え方について

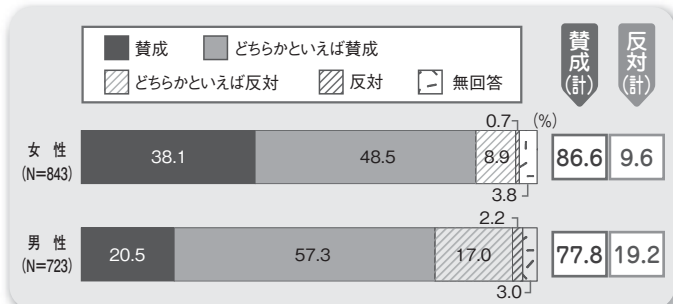
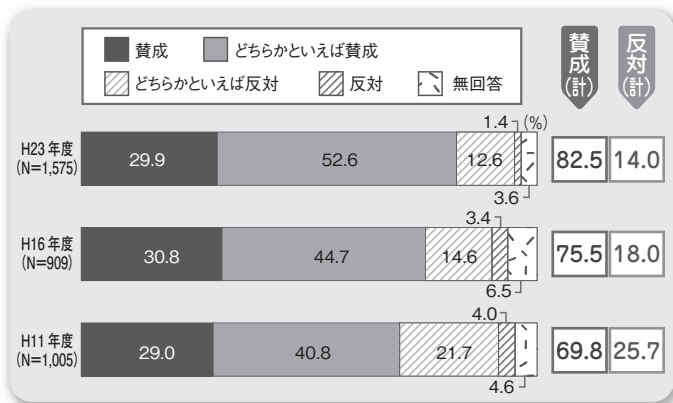
全体では、「賛成（計）」が「反対（計）」を上回るが、「反対（計）」は年々増加している。
女性には「反対（計）」が多く、男性には「賛成（計）」が多い。



「夫も平等に家事を負担すべきである」という考え方について

全体では「賛成（計）」が約8割おり、年々増加している。

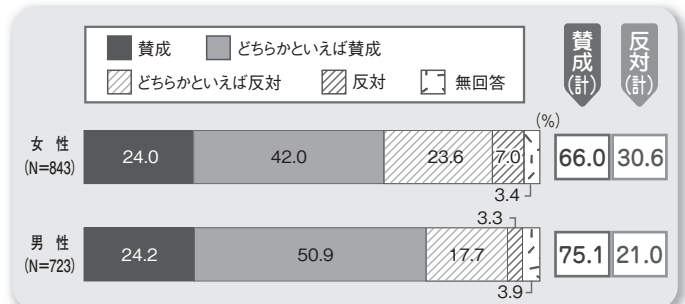
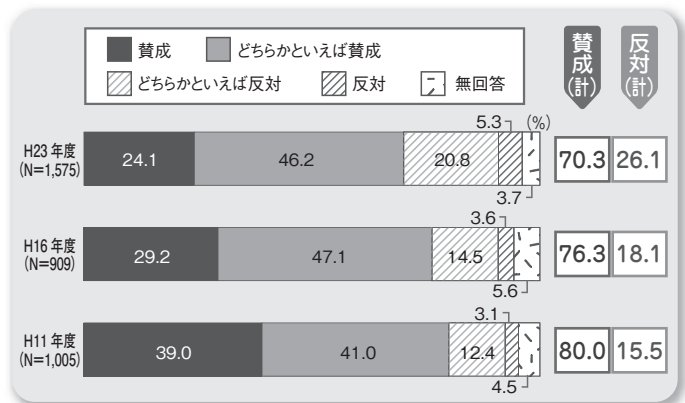
「夫も平等に家事を負担すべきである」と考えるのは、男性より女性の方が多く。



「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」という考え方について

全体では、「賛成（計）」が約7割おり、「反対（計）」を上回るが、「反対（計）」は年々増加している。

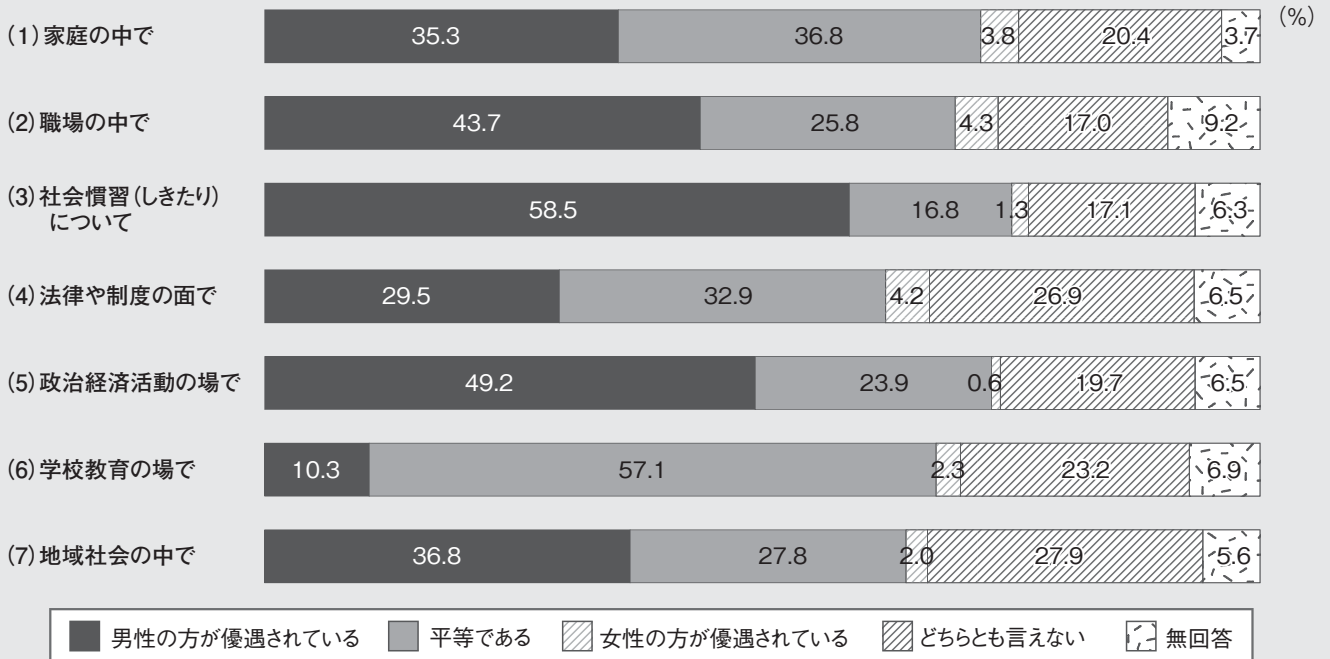
「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」と考えるのは、女性より男性の方が多く。



男女の地位の平等について

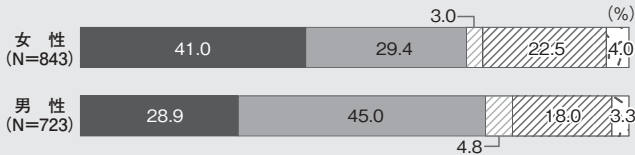
約6割の人が、学校教育においては「平等である」と考えている。一方、社会慣習（しきたり）については約6割の人が「男性の方が優遇されている」と考えている。

各N=1,575

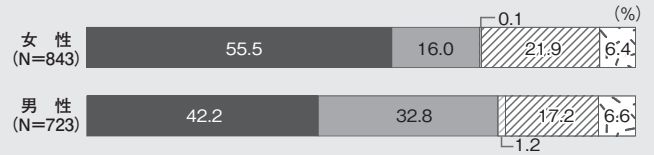


すべての分野で男性より女性の方が「平等である」と考えている人が少ない。

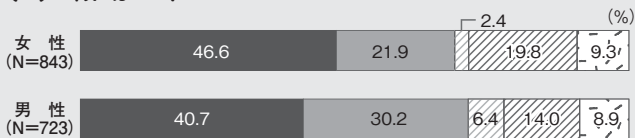
(1) 家庭の中で



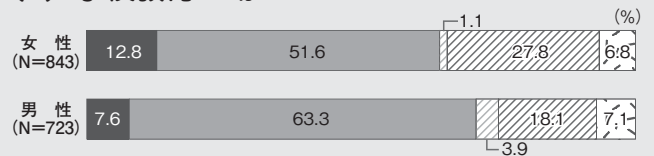
(5) 政治経済活動の場で



(2) 職場の中で



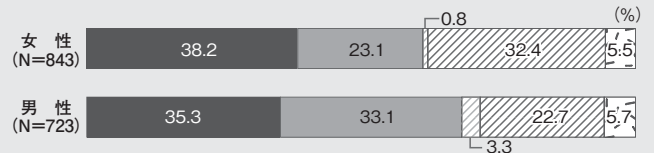
(6) 学校教育の場で



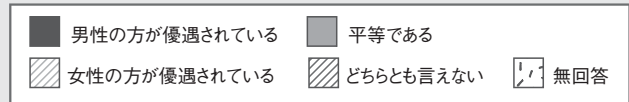
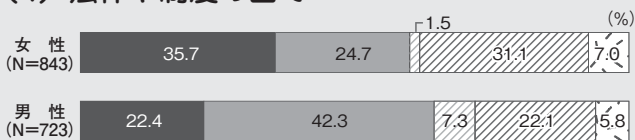
(3) 社会慣習（しきたり）について



(7) 地域社会の中で



(4) 法律や制度の面で

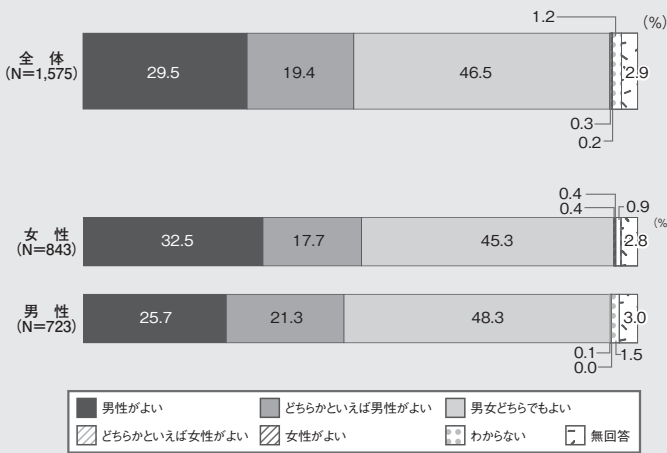


地域活動などの意識と実態

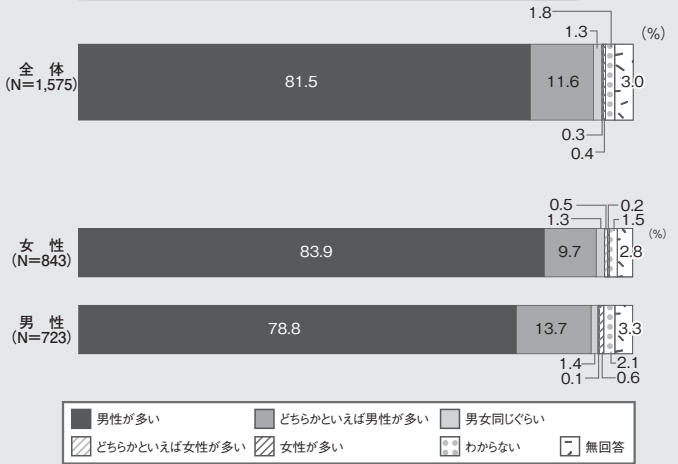
自治会長や町内会長

「自治会長や町内会長」を担当するのは、「男女どちらでもよい」と約5割の人が思っているが、実態では、約8割の人が「男性が多い」と回答している。

男女どちらが担当した方がよいと思うか



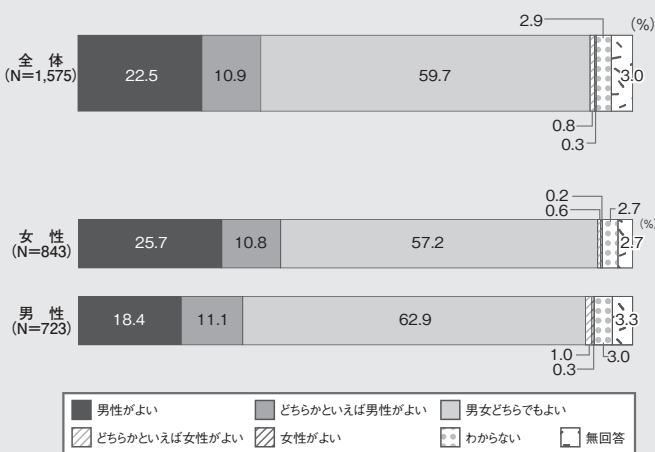
男女どちらが担当しているか



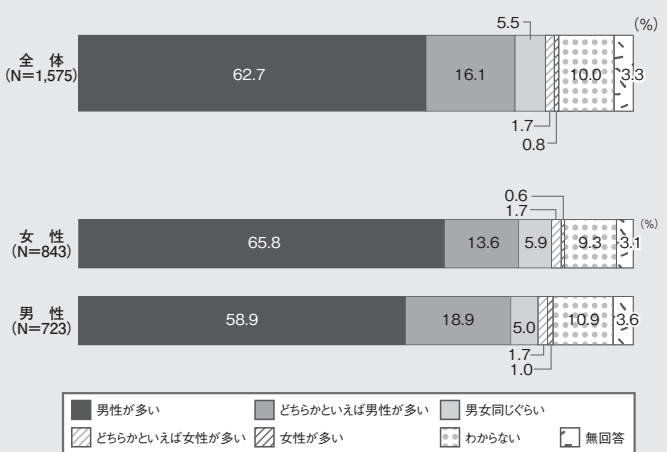
PTA会長

「PTA会長」を担当するのは、「男女どちらでもよい」と約6割の人が思っているものの、実態では、同じ約6割の人が「男性が多い」と回答している。

男女どちらが担当した方がよいと思うか



男女どちらが担当しているか



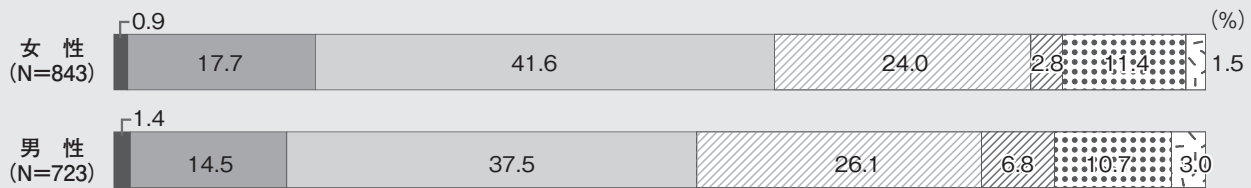
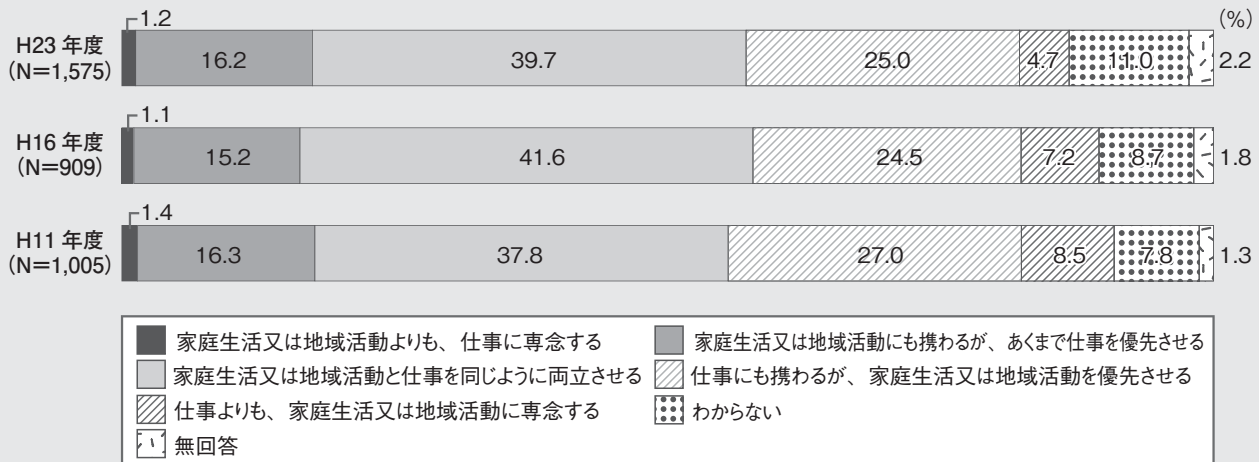
男女の望ましい生き方について

女性の望ましい生き方としては、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」が約4割で最も多い。

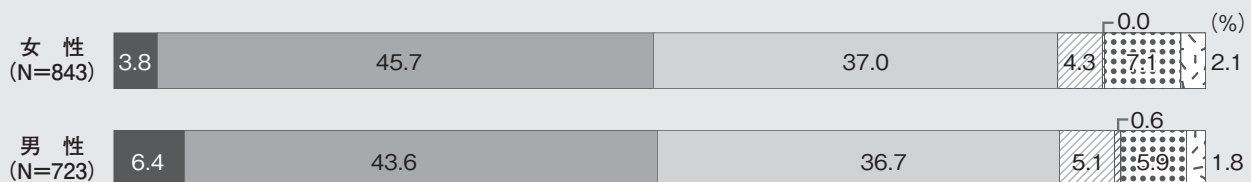
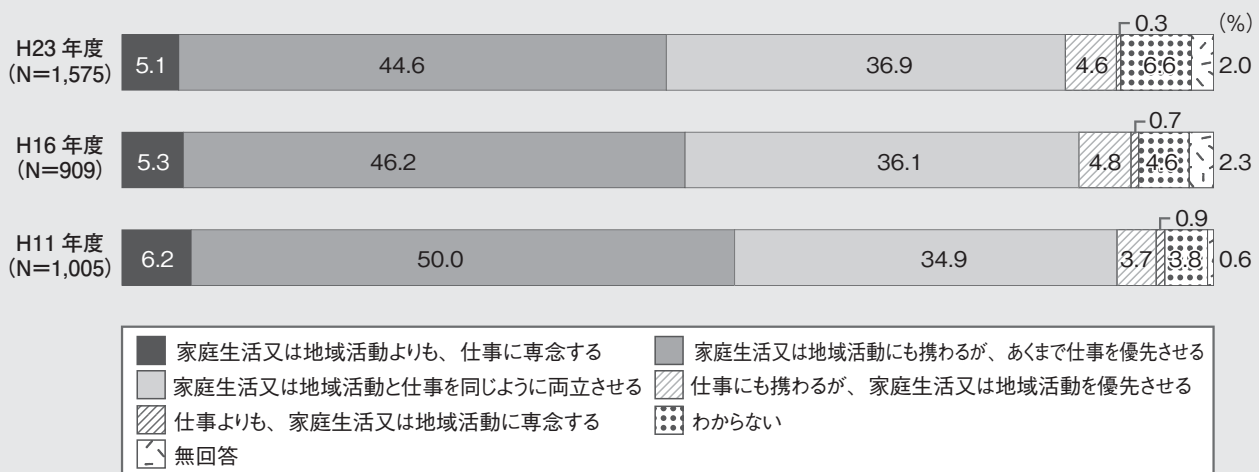
男性の望ましい生き方としては、「家庭生活又は地域活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる」が約4割で最も多い。

男性の「家庭生活又は地域活動に携わるが、あくまで仕事を優先させる」は減ってきており、一方「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」は少しずつ増えて4割に近づいている。

女性の望ましい生き方について



男性の望ましい生き方について

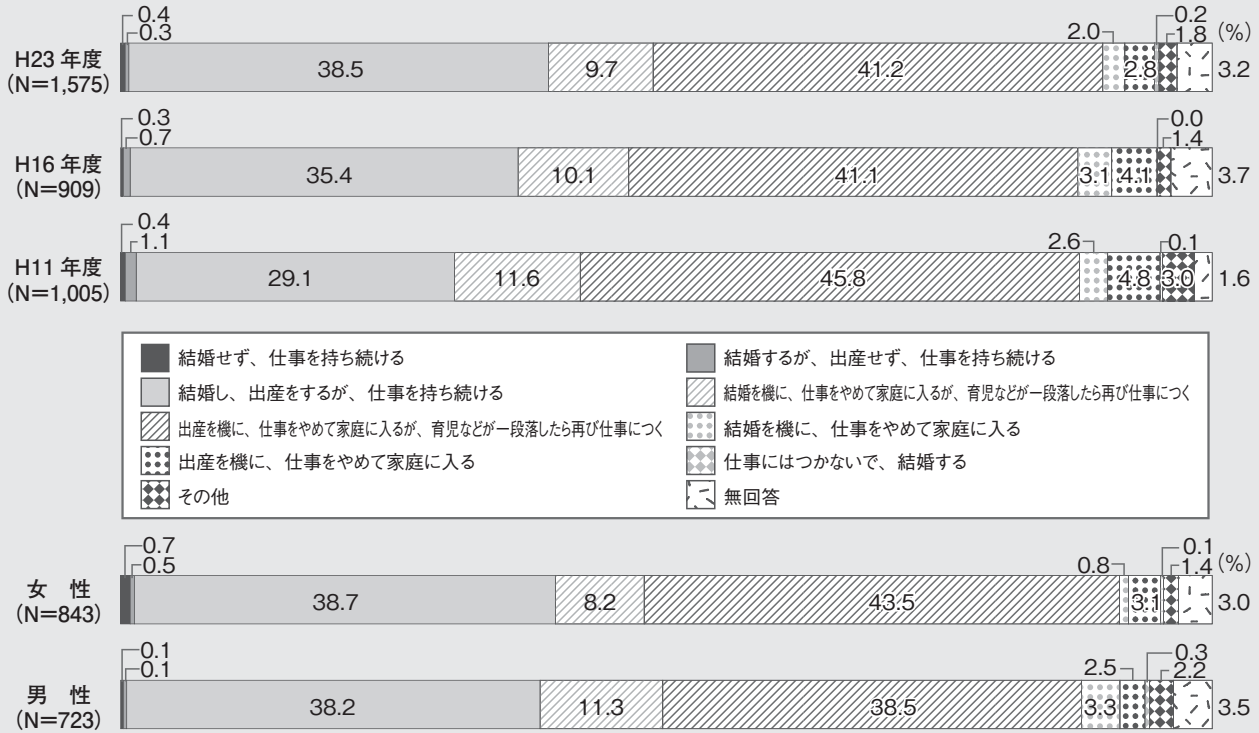


女性の働き方の理想と現実

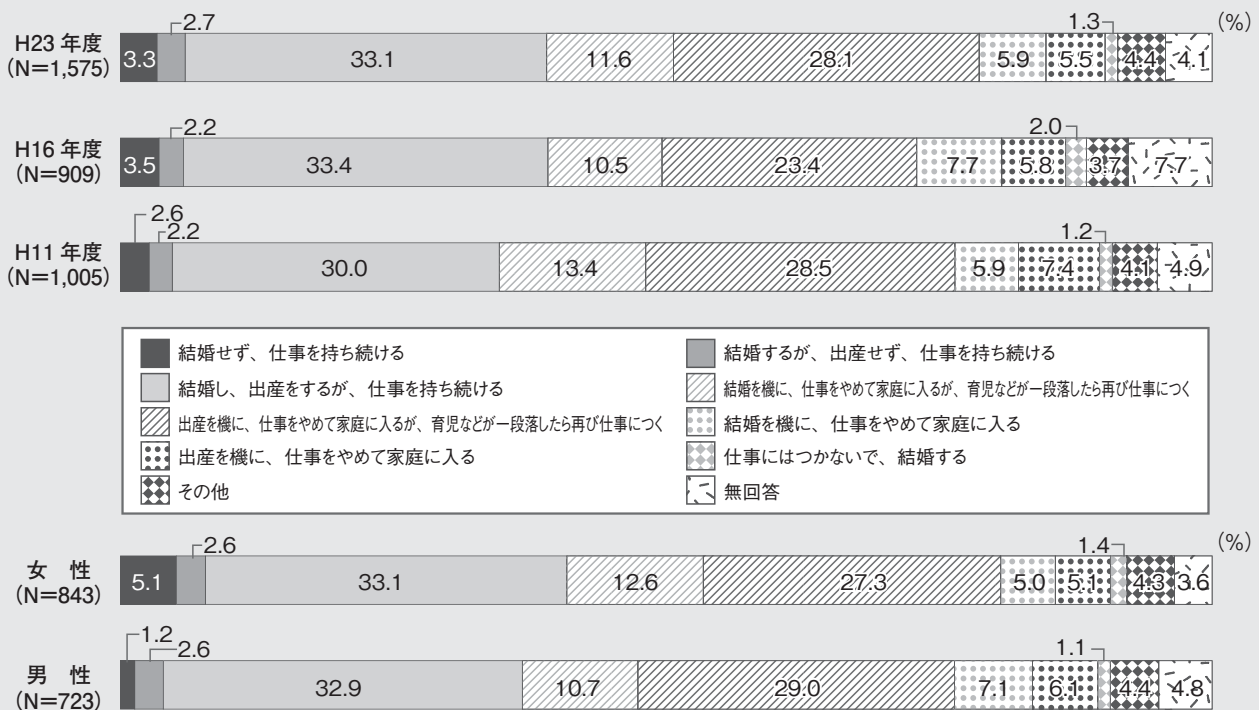
理想の働き方では、「出産を機に、仕事をやめて家庭に入るが、育児などが一段落したら再び仕事につく」が最も多かったが、現実には「結婚し、出産をするが、仕事をもち続ける」が最も多い。

現実の女性のライフスタイルとして「結婚し、出産をするが、仕事をもち続ける」人の割合に大きな変化は見られないものの、それを理想とする人の割合は増え続けている。

女性にとっての理想の働き方について



現実の女性のライフスタイルについて

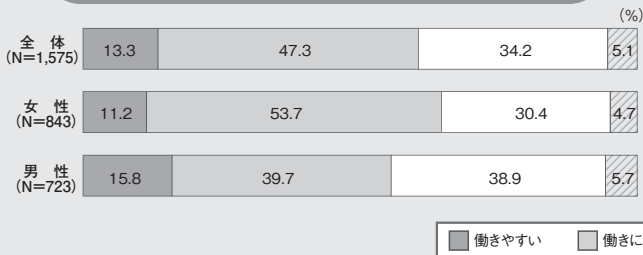


働きやすい環境づくりに必要なこと

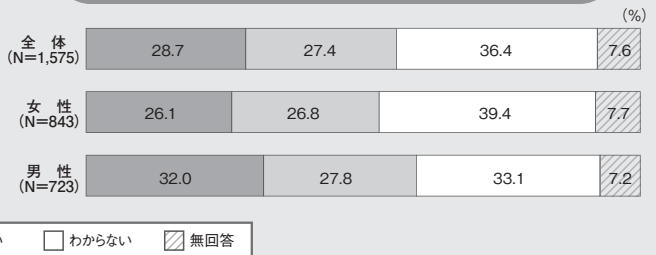
女性の労働環境については、男女ともに「働きにくい」と思う人が最も多く、男性の労働環境については「わからない」が最も多い。

女性は育児や介護など生活に密着した支援の充実を必要とするのに対し、男性は働く場や能力発揮の場など就業に関わる支援の充実を必要とする傾向がある。

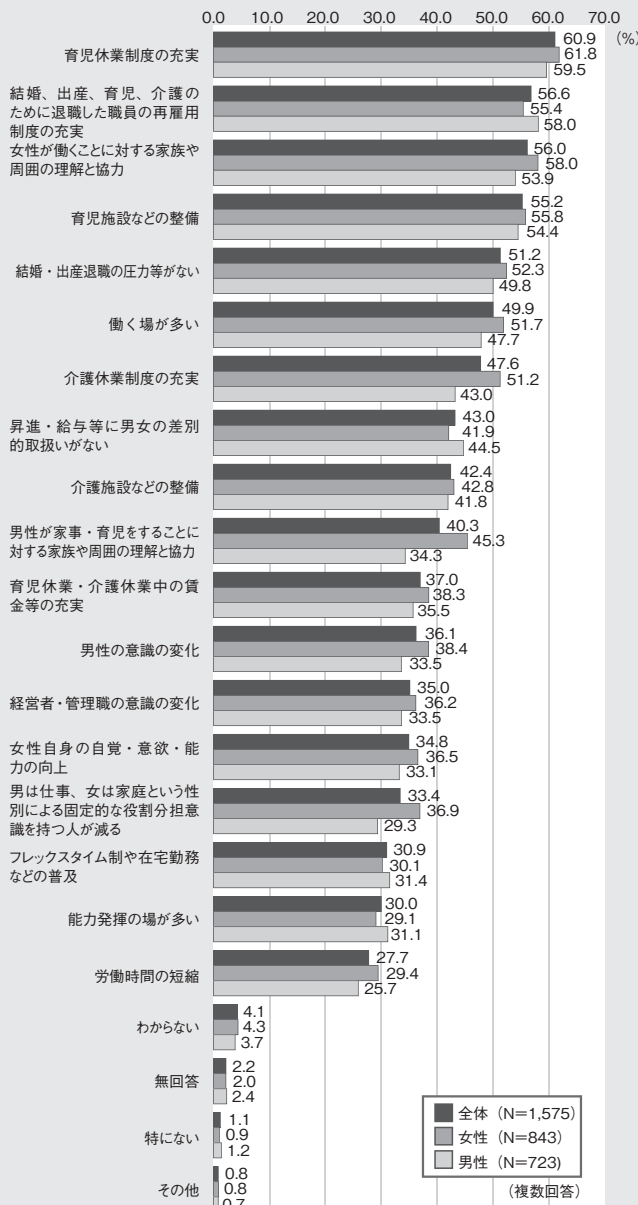
女性にとって働きやすい環境について



男性にとって働きやすい環境について



女性にとって働きやすい環境づくりに必要なこと



男性にとって働きやすい環境づくりに必要なこと

